

# 学校だより

## 2024年5月から7月までの 資格試験一覧

- この期間に日専校生が取り組んだ資格・検定試験の一覧を記載する。
- 5月22日 溶接技能者評価試験 (JIS検定) (3年溶接科)
  - 6月21日 計算技術検定(全学年)
  - 6月27日 技能照査実技 (3年機械科)
  - 6月28日 情報技術検定 (3年電気科)
  - 7月3日 2級旋盤技能士実技 (3年機械科) 3級電子機器組立実技 (2年電気科)
  - 7月6日 機械製図検定 (3学年選抜者)
  - 7月25日 危険物取扱検定 (2・3年選抜者)

### 新体力テスト

#### 自分の限界に挑戦

5月8日に新体力テストを全学年で実施した。前日の雨の影響で、屋外種目の実施が危ぶまれたが、予定された種目はすべて行うことができた。身長・体重などの身体測定と、50メートル走立ち幅跳び、ハンドボール投げの屋外種目、そして、反復横とびや長座体前屈などの体育館種目を行った。さらに通常の種目に加え、日専校独自の学校特別指定種目である、腕立て伏せ、垂

直とびも行った。20メートルシャトルランは、翌日以降の体育の授業内で実施した。生徒たちは体育や部活動で鍛えた運動の成果を大いに発揮し、自分の限界に挑戦していた。食欲に記録に挑戦する姿は立派であった。



新体力テスト

### 関東高等学校

#### ソフトテニス大会出場

6月1日、群馬県前橋市で開催された関東高校ソフトテニス大会(個人戦)に大内拓海(3年溶接科)・鈴木玲音(3年機械科)ペアが出場した。本校としては2022年度から3年連続の出場である。また、鈴木選手は昨年度に引き続き2年連続出場になる。大会は前日までの雨から天候が回復し快晴、絶好の大会日和となった。2回戦からの登場で、駒沢大学高校(東京)のペアに4-1で勝利して3回戦進出した



関東高校ソフトテニス大会

が、強豪高崎商業のレギュラーペアと対戦し、1-4で敗れた。しかしながら、県外大会への出場と勝利することから、ソフトテニス部の伝統となりつつあり、今年も3年生が後輩へ伝承することができた。勝つことで様々な経験ができ、人財育成のための貴重な経験となっている。今後も、競技力向上を通しての人財育成をしていきたい。

#### 3年機械科 鈴木 玲音

昨年に続いて関東大会に出場させていただき、3回戦まで進みました。県予選では思うような試合ができず結果が出ませんでした。しかし、気持ちを切り替えて関東大会では各試合諦めずに最後まで戦うことが出来ました。負けた相手は、今大会団体戦ベスト4のメンバーで、自分達より強い相手と対戦して良い経験が出来ました。県予選から悔しい結果ではありましたが、この経験を通じて多くのことを学ぶことができた大会でした。前回は、先輩とのペアだったため依存心もありましたが、今回は主体的にできました。今後の成長に繋がりたいと思います。応援ありがとうございます。

#### 3年溶接科 大内 拓海

今回、自分にとっては初めての県外大会出場となりました。期待と不安の中の大会出場でしたが、結果は3回戦敗退という悔しい結果でした。試合中にペアの鈴木君が「大丈夫、いいコースにいつてるよ」と言ってくれ、この大会では、今まで以上に鈴木君との絆が深まる大会になりました。また、自分達よりレベルの高い選手達と試合ができ、今の自分たちに足りないことに気がつくことができました。応援してくださった保護者や指導してくださった先生には感謝しかありません。ありがとうございます。

#### 前期中間試験

6月7日、10日の2日間、今年度最初の定期試験の前期中間試験を実施した。試験は各科目で40点以上が合格未満だと不合格で再試験となる。定期試験では毎回、1週間前になると試験準備期間と称して、学校や寮では受験の雰囲気になる。特に1年生にとっては入学して初めての定期試験であり、高校からの新しい科目も多く、早めに試験勉強に取り組んでいたようである。クラスや部活動単位での学習会の実施や、教え合う雰囲気があり、学校の重要な取り組みである「考動アクション」の実践が活かされている。試験は終了次第、教員により採点され正答を確認する。その結果は後日、ITサポートシステム「Classi」を通じて保護者の皆様へ報告する。振り返り、反



前期中間テスト

省をして9月に実施する前期期末試験での飛躍を期待する。

#### ボランティア活動で

#### 地域貢献「鮎川をきれいにする会」

6月9日、地域のボランティアグループ「鮎川をきれいにする会」に考動アクション委員会のメンバー8名が参加した。鮎川の一斉清掃は毎年6月の第2日曜日、10月第3日曜日に実施されている。作業内容は、鮎川に流れた木の回収、鮎川周辺のゴミ拾い、草刈りなどである。今後も地域貢献のために定期的に参加したい。

#### 2年電気科 石田 誉

「鮎川をきれいにする会」に参加させていただきありがとうございます。今回参加してたくさん学ぶことができました。特に人との関わりです。普段

(9頁の続き)

学校や寮で生活している自分にとってあまり関わりを持つことが少ない世代で、自分たちとは生活や考え方が違ったと思います。しかし、そのような方たちとこのような活動を通して関わることで、お互いの中に少しでも信頼関係が生まれたと思います。近代化の進んでいる今だからこそ、幅広い年齢層とボランティア活動を通して関わることで、地域貢献だけでなく自分の考え方を広げたりすることに繋がります。これからも機会があれば、このような活動に参加して地域貢献とともに人との関わりを増やしたいと思います。



鮎川をきれいにする会(地域ボランティア)

### 1年生が成沢霊園で

#### 戦災殉職者慰霊

6月10日は日立事業所の「戦災の日」である。1945年6月10日、米軍のB29による爆撃により日立事業所では



戦災殉職者慰霊(成沢霊園)

634名の尊い命が失われた。この先人の犠牲を忘れぬため「戦災の日」が定められ、空襲の第一波があった8時51分に全従業員が黙祷を捧げるのが慣例になっている。日専校でもこの日に合わせ、1年生による成沢霊園での戦災殉職者慰霊参拝を実施した。13時過ぎに日専校を徒歩で出発。現地で戦災の説明を聞いた後、「諸精霊之碑」および751名の戦没者氏名が記された「陶輪碑」に参拝し戦没者追悼を行った。生徒たちは終始、神妙な面持ちで参拝を行っていた。時間の経過とともに戦争の記憶がうすれゆくなか、日専校の生徒たちには、この機会を通して日立の戦災の歴史を知るとともに、平和のありがたさを実感してほしいと切に願う。また、こうした意義の深い慰霊参拝は日専校としてもぜひ継続していきたい。

### 避難訓練

#### 万が一の災害に備えて

6月14日、日専校にて本年度最初の避難訓練を実施した。同訓練は6月と2月に計2回実施している。今回の避難訓練内容は、午前10時35分《マグニチュード7の直下型地震に見舞われ、日専校に於いても教室内の壁や天井の破損等の被害が発生。更に機械実習棟変電設備から出火》この想定された被害及び火災状況を、校内放送にて学校・寮職員及び生徒に周知し、各々自身の安全を確保しながら決められた場所へと避難する。加えて、日立消防署に協力していただき、職員1名が想定火災発生状況を通報する《通報訓練》も実施した。避難後は、それぞれのグループ及び学年毎の人員確認を実施し、消防隊長(学校長)へ報告し訓練完了



避難訓練

となる。今回の訓練では目標の5分以内に全員が安全に避難する事が出来た。これからも万が一の有事に備え定期的な避難訓練を実施する予定である。

### 野球部OB会で

#### 現役部員との交流



野球部OB交流会

夏の選手権開幕も迫る6月30日、2024年度日専校野球部後援会イベントが本校グラウンドで盛大に開催された。まず初めは9時からOBによる紅白戦(軟式)が行われ、OBたちはみな往年のプレーを彷彿とさせるような機敏な動きで熱戦を繰り広げた。心配していた怪我人も出ず、全員無事戦いを終えられたことは幸いであった。その後、必勝祈願から戻った後輩たちの練習を見学し、お待たかねのバーベキューに突入。先輩、後輩の区別なく、

お互い日専校の一野球部員として思い出話や野球部の現状などを語り合い、楽しいひとときを過ごした。なお今回のイベントは、後援会会長である加瀬友和氏(81回卒)が発起人となった初の試みである。このイベントは、今後もOBの親睦と後輩への激励を兼ねて継続していく。

### 科技高生活体験発表会

#### 土屋更紗さん(3年電気科)が

#### 最優秀賞

7月10日、第57回科技高生活体験発表大会が東京都世田谷区の科技高本校体育館において開催された。参加者は科技高本校および各連携校から選ばれた9名であった。日専校からは3年電気科の土屋更紗さんが参加し「助け合う心と考動」と題して自身の体験を熱く語った。発声の明瞭さ、姿勢ともに堂々と凛々しく、普段の本人らしい姿で発表でき、見事、最優秀賞を獲得した。



科技高生活体験発表会(前列右端が土屋さん)

### 全国高等学校野球選手権大会 茨城大会全校応援

7月6日にノールホームスタジアム水戸で第106回全国高校野球選手権茨城大会の開会式が行われ、95校88チームの選手が勢ぞろいし、甲子園をかけた熱戦が開幕した。



全国高等学校野球選手権大会茨城大会

茨城県では全国的に希少となりつつある全校応援が残っており、各校の応援も見ものとなっている。日専校（科学技術学園高等学校日立）も6月中旬から応援団と吹奏楽部が練習を重ね、全校応援の準備を進めた。今年度から部長には、本校、野球部OBの真田正孝先生（86回卒）が就任し、恩師である飯塚監督とともに夏の大会を制すべく挑んだ。また、3年生でキャプテンの小又は3つ子で、本校と日立工業、茨城キリスト



応援団風景

3校それぞれで背番号9番というところでメディアでも取り上げられ注目を集めた。

初戦（2回戦）はひたちなか市民球場で佐和高校と対戦、当初7月15日に行う予定であったが、天候不順のため7月16日に順延された。3回裏に藤田、宮内の連続安打で2者が出塁すると、小又の強い打球が相手エラーを誘い、先制。また、4回裏には熊澤、藤田のヒットで2者が出塁すると、坂本がタイムリーヒットを放ち、追加点を上げた。5回表には守備の乱れから1点を返され、終盤に幾度となくピンチを迎えるが、宮内投手の粘り強いピッチングで1点差を守り、2年ぶり3回戦進出を決めた。



野球部キャプテン 小又 草一郎君

学高等学校）と7月18日にひたちなか市民球場で対戦した。後攻の土浦日大に初回3点本塁打を許すと、5回までに7点のリードされる苦しい展開となったが、6回に藤本が四球で出塁すると、盗塁、熊澤がタイムリーヒットで1点を返し粘りを見せた。しかしその後2点を奪われ、反撃及ばず7回コールドゲームとなった。

応援では2試合とも人数で劣るも相手校に引けを取らない大きな応援で選手の力になったものと感じる。また、試合を中継していたケーブルテレビ（J-WAY）のアナウンサーも本校の応援を高く評価され、本校の「和」の精神を示すことができたものと思う。短期間ではあったが、応援リーダー、吹奏楽部を中心に、球場全体を巻き込む様な素晴らしい応援ができたと感じた。

野球部キャプテン 3年溶接科 小又 草一郎

暑い中にもかかわらず、私たち野球部を応援していただき、ありがとうございます。残念ながら3回戦敗退という結果でしたが、勝敗よりも野球を通して人間力や感謝の気持ちを学ぶことができました。私たちの試合のたびに球場まで応援に駆けつけてくださり、熱い声援を送っていたことに心から感謝しています。皆さんの声援によって私たちのモチベーションが高まり最後まで諦めない勇気を与えてくれました。3年生の高校野球は終わってしまいましたが、私たちの本当の勝負はこれからです。工場実習を経て事業所に就職し、技能五輪訓練所や生産職場で働くことになると思います。この高校野球2年半の中で多くのことを学ぶことができましたので、この経験を活かして技能五輪や職場で活躍し、一日でも早く即戦力になれるように頑張ります。これからも応援よろしくお願いします。

応援団長 3年電気科 崎川 真之介

今年度の応援リーダーは昨年度よりも多くのメンバーが集まり、吹奏楽部と生徒のみなさんと協力して、選手に応援を送ることができました。応援練習においては、他の予定と重なってしまい、全員が集まって練習を進めることができず、野球部を応援する立場として応援する力が欠けてしまっていることがとても不安で



応援団長 崎川 真之介君

した。更に、今年度は初心者リーダーが多く、応援リーダーを一つにまとめることにとても苦労しました。それでも応援リーダーの一人ひとりが前向きに積極的に練習に取り組み、時間はかかりましたが一つにまとめることができました。試合本番では、野球部の選手のみなさんの全力プレーを見て、私たち応援リーダーも気持ちで負けないようにして、学校の応援団としての規模は小さいながらも全員が大きな声を出し、選手へ精一杯の声援を送ることができました。私は応援団長として、全力で物事に取り組んだあの達成感や、みんなので一つのことに対して応援するというこの楽しさを知ることができました。このような貴重な経験をさせていただき、ありがとうございます。